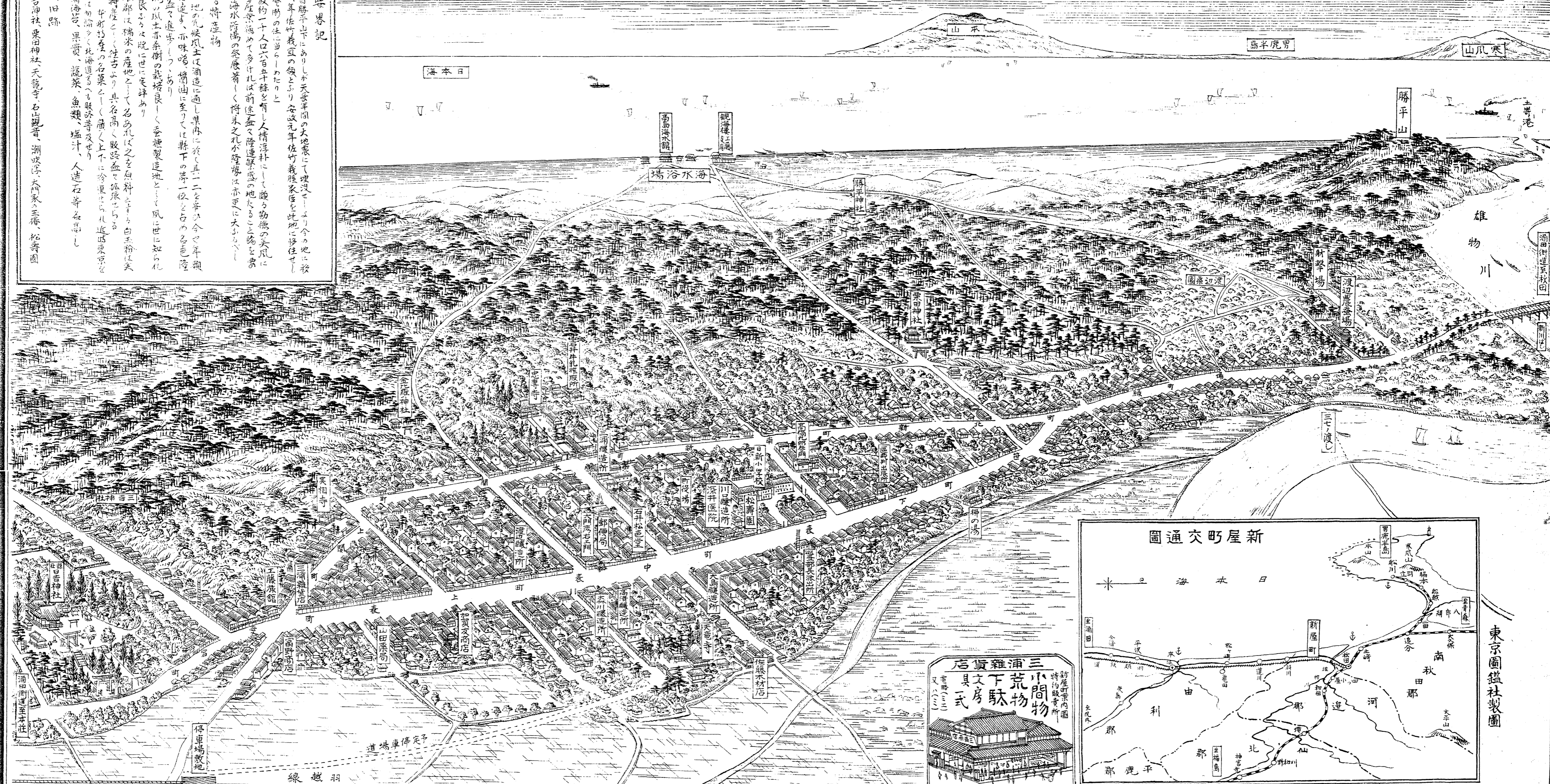


# 秋田縣河邊郡新屋町案内圖



**重要界記**

新屋町は、往昔、山にありしが、天保年間の大地震にて埋没せし地なり。今、地は移り、元和八年佐竹義隆の領となり、各政元年佐竹義隆家臣に此地に移住せしめ、以後海防警備の地とせしむるに由り、目下町の敷地約十人六百年餘を有し、人情厚朴にして、物産の天風に富み、而して産業極めて多ければ、前途益々隆盛の地たることを論じ、近時海水遊蕩の害甚著しく、得米之孔少、遊蕩は亦甚に大なり。

**重要特産物**

● 醸造業 地の気候、土は酒造に適し、早稲に於て、其一二を挙げ、今、年額五千石に達す。亦味噌、醤油に至りては、縣下の第一位と名のるに色澤、香りと益々進歩しつゝあり。

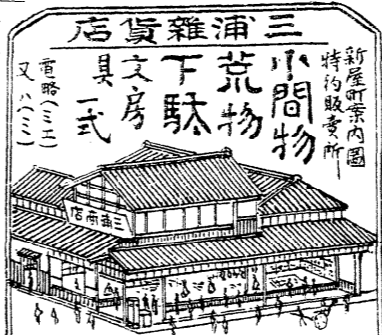
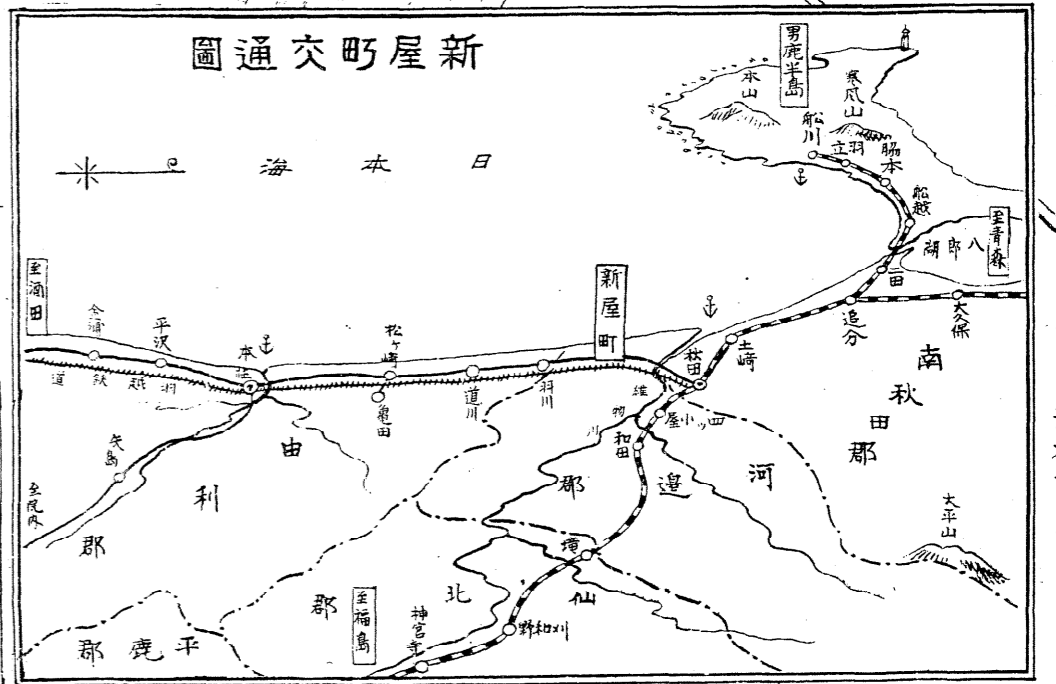
● 養蚕業 地の風土、桑樹の栽培、良し、各種製法、地とて、既に世に知られ、成績の佳良、亦、既に世に定評あり。

● 白玉粉 本郡は、糯米の産地として、名あれば、之を原料とする、白玉粉は、天に本町の特産物として、生古より、其名高く、販路益々、遠く及ぶ。

● 羽釜酒造 昔、新屋町の名産として、昔より、其名高く、販路益々、遠く及ぶ。物産、酒造、味噌、醤油、魚類、塩漬、人造石等、名産し、

**名所旧跡**

▲ 勝平山 古くは、栗田神社、天龍寺、石上觀音、潮波宮、高家、五徳、松壽園



東京圖鐵社製圖

大正六年十月十八日印刷 著者 藤原 清水吉康 發行所 東京圖鐵社  
大正六年七月廿五日發行 行印 藤原 清水吉康

## 特別營業案内

時代の要求  
優良各種  
一代雜糧製造所  
酒類釀造業  
渡邊幸四郎  
大正六年三月五日  
東京三三五番

若君の代  
醸造元  
源 大島源助  
北海道室蘭支店  
電話〇七

箱詰何醬油  
清正醃味噌  
醸造元 賀屋  
高橋九郎門  
米穀救済高丸川支店

木村 販賣  
夜精堂  
川口支店  
佐藤支店

藥種方師醫  
調劑調方師醫  
本教學大  
堂山曙田山  
番六二九五京東盛口曙根

萬 炭  
川口新助  
元造 萬

內外  
元造製粉玉白  
物荒翁  
郎五徳野富  
(トハ又(ミト)路電

椿醬油  
天 元造 醃  
清正 醃  
門衛右彦門大

宗正東  
酒造元  
三浦善治

分加友店  
小間物光物  
雜貨  
三浦善治

新屋町役場  
賛助

定價金拾銭